

囲碁にまつわる言葉 【碁子麵】

八碁連の前身である碁老連は、同好会同士の囲碁対抗戦をやっていました。各同好会より6名の代表を選んで開いたようです。さらに新春囲碁祭りを2日間に渡って行ったというのですから、その元気さが伺えます。平成2年の大会には、今もかくしゃくとしておられる信江峻氏のお名前もあります。平成4年くらいまでは、ニュースレターは大会記録や碁楽連の規約、内規で一杯です。

平成2年には、電話100年事業の一環としてNTT八王子支店が敬老囲碁大会を主催しています。大会参加者多数のために、予選会を実施するという盛況ぶりです。このときの弁当は、海苔巻き、いなり詰め弁当で300円とあります。

ニュースレターには、駄句という断りながら、【碁敵は憎くも、愛し燕来る】【目を余して優勝ビール冷ゆ】という名句が掲載されています。

----- 【碁子麵】 -----

「碁」とは、碁や将棋の競技などの意味で、他の盤上遊戯の駒や碁石、その盤を意味します。「碁」は「棋」の以前に使われていた字です。碁は棋の異体字というわけです。江戸時代後期の有職故実の随筆『貞丈雑記』では、碁子麵は「小麦粉をこねて薄くのばし、竹筒で碁石の形に打ち抜き、ゆでてきな粉をかけた食べ物」との記述があるようです。原型は麵でなく碁石型だったというのですから面白いことです。現在は「ひもかわ」とも呼ばれ、平打うどんが通称になっています。

信長の時代に『日葡辞書』というポルトガル語辞典がイエズス会から出版されます。その中に「Qiximen」という項目があり、「Qiximen. キシメン（碁子麵）小麦粉で作った食べ物的一种」という記述があるようです。囲碁とは全く関係がなさそうですが、



信長も碁を打っていたようです。好奇心が旺盛だったようで、イエズス会の宣

教師からヨーロッパの諸事情を学んでいたといわれます。ルイス・フロイス (Luís Frois)は信長から畿内での宣教を許されます。

2021年9月21日 大和田囲碁同好会 成田 滋